

地域女性活躍推進交付金実績報告書(都道府県分) 個別事業

都道府県名:鹿児島県

| | |
|----------|--|
| 事業番号 | ① |
| 1. 個別事業名 | 女性が活躍できる企業応援事業 |
| 2. 実施期間 | 平成29年 4月 1日 ~ 平成30年3月31日 |
| 3. 総事業費 | 3,148,523円 |
| 4. 事業内容 | <p>女性だけでなく男性を含めた社会全体の働き方や意識の改革, 固定的な性別役割分担意識に基づく男性を中心とした雇用慣行の変革には, 管理職を含めた企業トップの意識改革が最も重要である。</p> <p>また, 平成28年度に企業の経営者及び従業員を対象に実施した実態調査においては, 「女性活躍推進に必要な行政の支援・施策」に関する設問に対して, 経営者, 従業員いずれも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営者, 管理職への意識啓発を目的とした講演会, セミナーの開催 ・女性への意識啓発等をねらいとした講演会, セミナー等の開催 <p>と回答した割合が高かった。</p> <p>このため, 女性活躍推進の取組を県内企業に普及させるため, 企業トップ及び管理職に対する取組を強化して県内企業の職場環境の整備の促進を図った。</p> <p>(1) 女性活躍推進企業トップセミナー (対象: 企業トップ等) 男性中心型労働慣行等の職場環境・企業風土の改善には, 企業トップが先頭に立ってダイバーシティマネジメントを実践し, 働き方改革を推進することが必要であることから, 企業トップ等の意識改革を図るためのセミナーを開催した。 日時: 平成29年9月13日 会場: かがしま県民交流センター 参加者: 115名 ① 女性活躍推進優良企業知事表彰 株式会社城山観光, 株式会社新日本科学, 株式会社トヨタ車体研究所 ② 表彰企業事例発表 ③ 講演「企業成長の鍵を学ぶ 女性活躍で企業が変わる！」 講師 佐々木常夫さん(株式会社佐々木常夫マネージメント・リサーチ)</p> <p>(2) 女性活躍推進企業管理職マネジメントセミナー (対象: 企業管理職等) 企業管理職を対象に, ダイバーシティマネジメントやワーク・ライフ・バランスを推進することにより, 部下の意欲と能力の向上を図り, 労働生産性を向上させるマネジメント力向上のためのセミナーを開催した。 1回目 日時: 平成30年1月31日 会場: ウォーターフロントパーク 参加者: 41名 2回目 日時: 平成30年2月1日 会場: リナシティかのや 参加者: 15名 ① 講演「女性が活躍する現場作りの秘訣。」 講師 塚越学さん(株式会社東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス推進部上席シニアコンサルタント, NPO法人ファザーリングジャパン理事)</p> <p>(3) 女性活躍推進優良企業の知事表彰 女性の登用や継続就業など, 女性活躍推進に積極的に取り組む企業を表彰し, その事例を広く情報発信することで, 女性活躍推進に取り組む県内企業の取組の促進を図った。 また, 優良事例を広く情報発信するため, 女性活躍推進企業トップセミナーで事例発表するとともに, 取組事例パンフレットを作成し, 県内の取組拡大を図った。</p> |

| | | |
|----------------------|---|---|
| 4. 事業内容 | ・経済団体、関係団体など官民連携の考え方及び具体的な連携主体・連携方法 | 各セミナーの実施に当たっては女性活躍推進会議と共催で行い、企画の検討や、構成団体を通じたセミナーの周知、参加促進を図った。 なお、優良企業の表彰については、県女性活躍推進会議の構成団体を通じて幅広く募集を行うとともに、同会議において表彰候補企業を選考した。 |
| | ・連携地方公共団体及び具体的な連携方法 | 県内全域の企業に事業に参加してもらうため、市町村を通じて、各セミナーの周知を図った。 また、鹿児島市においては、市実施事業の企業訪問の際に、各セミナーのチラシ配布等の協力を依頼し、より充実した情報発信が行えるよう連携を図った。 |
| | ・交付金事業間連携、他施策との連携 | 従業員の仕事と子育ての両立支援に取り組む企業に対する県独自の登録制度「かごしま子育て応援企業登録制度」の登録事業所に対し、セミナーの参加を呼びかけるとともに、個別事業の周知に関する協力を得るなど、連携を図った。 |
| 5. 事業効果及び効果検証の概要 | 女性の活躍をはじめとするダイバーシティ推進の必要性について講演いただくことにより、県内事業所の経営者や管理職等に広く経営戦略としてのダイバーシティ・マネジメントについて理解を深めることができた。 セミナー実施に当たり、県女性活躍推進会議と共催で行うことにより、構成団体等のさらなる意識向上につながった。 | |
| 6. 目標達成度及び達成状況に対する評価 | 鹿児島県女性活躍推進宣言企業数は目標25社に対し、22社であった。 今後とも県女性活躍推進会議構成団体等と連携して、女性活躍の必要性についてのPRや企業へのより一層の働きかけを行う必要がある。 | |
| 7. 今後の課題 | 当県においては、鹿児島県女性活躍推進計画に基づき、女性の活躍推進に向けた取組を進めているところであるが、未だに男性中心型労働慣行等の企業風土は根深く、女性の活躍推進のためには、経営者及び管理職の意識改革が重要であり、今後とも、県女性活躍推進会議や女性ワーキンググループ等と連携して、女性活躍の必要性についてのPRや企業へのより一層の働きかけを行う必要がある。 | |

地域女性活躍推進交付金実績報告書(都道府県分) 個別事業

都道府県名:鹿児島県

| | |
|----------|---|
| 事業番号 | ② |
| 1. 個別事業名 | 女性のキャリアアップ支援事業 |
| 2. 実施期間 | 平成29年 4月 1日 ~ 平成30年 3月31日 |
| 3. 総事業費 | 2,437,596円 |
| 4. 事業内容 | <p>本県の有業者に占める女性の割合は全国第4位であり、働く女性が多い状況にあるが、一方で、管理的地位に占める女性の割合は全国第26位と低い水準に留まっている。県内の事業所においては、女性の管理職登用を特に増やす考えはないという経営者が半数を占め、女性従業員が少数であること、必要な知識・経験・判断力を有する適任者がいないこと、女性従業員の勤務年数が短いことなどをその理由に挙げている。一方で、女性従業員においても、自分の能力に自信がないこと、責任が重くなることや長時間労働により仕事と家庭生活の両立が困難になることへの懸念から、その半数が管理職に就くことを希望していない状況にある。</p> <p>このため、平成28年度中に策定した鹿児島県女性活躍推進計画において、「働く女性が能力を發揮していきいきと活躍できる環境づくり」を重点目標に掲げ、女性の能力發揮のための支援や女性活躍の気運醸成と企業等における「見える化」に取り組むこととしており、本事業において、女性が将来のキャリアデザインを描き、意欲を持って就業できるよう、意識の向上やキャリアアップのための能力開発の支援を行うとともに、ロールモデルの提示や交流の機会を提供するためのセミナーを実施した。</p> <p>(1)県女性活躍推進会議女性ワーキンググループによる協議 女性活躍推進会議に設置している女性ワーキンググループにおいて、協議、意見交換を行い、女性活躍推進の事業に反映させた。</p> <p>(2)働き続けたい女性のためのキャリアアップセミナー ・キャリアデザインセミナー〈対象:働き又は働こうとする全ての女性〉 女性が将来のキャリアデザインを描き、意欲をもって就業できるよう、意識の向上やキャリアアップのための能力開発、ネットワークづくりの支援を行うことを目的にセミナーを開催した。 ○セミナー名:「わたし×働くのこれからをデザインする3Days」 共催・会場:マルヤガーデンズ 1日目 「わたし×働くのこれまでを知りこれからを考える」平成30年2月3日 参加者数100名 講師 浜田敬子さん(BUSINESS INSIDER JAPAN統括編集長/AERA前編集長) ※1日目は公開講座とした。 2日目 「働く×壁 働く女性を支える法や制度をてがかりに」平成30年2月11日 参加者数36名 講師 大庭直美さん(鹿児島労働局 雇用環境・均等室長) 高丸理香さん(鹿児島大学高等教育研究開発センター助教(キャリアコンサルタント)) 3日目 「わたし×働くのこれからをデザインしよう」平成30年2月17日 参加者数29名 講師 山下亜紀子さん(九州大学大学院人間環境学研究院人間科学部門准教授) 高崎恵さん(ワークショップデザイナー/多様性トレーナー) 同窓会 平成30年3月24日 参加者数10名 会場:かごしま県民交流センター</p> <p>・ロールモデルの提供セミナー〈対象:働く女性〉 働く女性の中には、責任が重くなることや長時間労働により仕事と家庭生活の両立が困難になることへの不安などを理由として管理職につくことに消極的な女性も多くいることから、女性が将来のキャリアデザインを描き、意欲をもって就業できるよう、ロールモデルの提示、交流の機会となるセミナーを開催した。 なお、当該セミナーは、働く女性のニーズを反映するため、鹿児島県女性活躍推進会議女性ワーキンググループが企画段階から参画し、協働で実施した。 ○セミナー名:「私の働き方を考える～おしえて先輩 聞かせて先輩～」 日時:平成29年9月27日 会場:かごしま県民交流センター 参加者数:51名 ①講演「互いの幸せのために一人ひとりの尊厳に気づき向きあおう」 講師 古城順子さん(オフィス藤田有限会社 取締役) ②トークセッション パネラー:鹿児島県女性活躍推進会議女性ワーキンググループメンバー5名 コーディネーター(②, ③):高崎恵さん(ワークショップデザイナー) 女性ワーキンググループメンバーから5名が登壇し、自身の現状や働く上での課題を報告した。 ③フリートーク 講師や女性ワーキンググループメンバーも交えて、参加者同士の意見交換を行った。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>4. 事業内容</p> | <p>・仕事と生活の両立に向けたセミナー〈対象:一般県民〉 仕事と生活の調和について理解を深めるとともに、働き方の見直しと固定的性別役割分担意識の解消を図り、仕事と育児や介護等との両立に対する不安・問題を解消するためのセミナーを開催した。 ○セミナー名:「ワーク・ライフ・バランスセミナー」 日時:平成29年11月3日 会場:かごしま県民交流センター 参加者数:49名 ・講演「ワークライフバランス実践術～子育て・介護しながら働く秘訣～」 講師 渥美由喜さん(内閣府地域働き方改革支援チーム委員・地域推進アドバイザー) ・小・中学生対象ワークショップ「自分を好きになるための男女共同参画学びの広場！」 参加者数:10名 講師 高崎恵さん(多様性トレーナー/ワークショップデザイナー), 県男女共同参画ジュニアリーダー 子育て世代の方がお子さんと一緒にお越しいただけるよう、セミナーと同時に実施した。</p> <p>(3) 働きたい女性のためのキャリアデザインセミナー ・女子学生のためのエンパワメントセミナー〈対象:学生等〉 男女共同参画の基礎知識の学びを通して、固定的性別役割分担意識にとらわれず、主体的にこれからの生き方・働き方を選択する力をつけて多様なキャリアを形成していくためのセミナーを開催した。 ○セミナー名:「学生のための男女共同参画ワールド・カフェ～これからの生き方・働き方を考えよう～」 日時:平成29年8月9日, 会場:鹿児島大学, 参加者数:32名 講師 萩原なつ子さん(立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授)</p> |
| <p>・経済団体、関係団体など官民連携の考え方及び具体的な連携主体・連携方法</p> | <p>各セミナーの周知に当たっては、女性活躍推進会議の構成団体にも周知依頼した。 2(ア)では、商業施設であるマルヤガーデンズとの共催により実施し、広報、申込受付、会場使用料の免除等あらゆる御協力をいただいた。 2(イ)では、特に女性活躍推進会議の構成団体である鹿児島経済同友会に会員への周知(チラシ発送)に御協力いただいた。 2(イ)では県女性活躍推進会議女性ワーキンググループと協働し、セミナーの内容についての協議を行い、また、パネラーとして登壇いただいた。 3(ア)では県女性活躍推進会議の構成団体である鹿児島大学との共催により実施し、広報や会場の提供等協力いただいた。</p> |
| <p>・連携地方公共団体及び具体的な連携方法</p> | <p>県民及び県内全域の企業に参加してもらうため、市町村を通じて、各セミナーの周知を図った。</p> |
| <p>・交付金事業間連携、他施策との連携</p> | <p>従業員の仕事と子育ての両立支援に取り組む企業に対する県独自の登録制度「かごしま子育て応援企業登録制度」(県雇用労政課所管)の登録事業所に対し、セミナーの参加を呼びかけるなど、連携を図った。</p> |
| <p>5. 事業効果及び効果検証の概要</p> | <p>それぞれのセミナーで対象を分け、よりニーズに合った内容を提供したことにより、あらゆる世代、様々な状況の女性にアプローチすることができ、女性のキャリア意識の向上、昇進への意欲の高まりにつながった。 商業施設や大学といった男女共同参画センター以外の場所でセミナーを開催したことにより、当センター主催事業への参加が少なかった層、当センターを知らない方へ情報を届けることができ、多くの参加につながった。 セミナー開催に当たり、女性活躍推進会議ワーキンググループのメンバー等と協働で実施したことにより、メンバー等のさらなる意識向上につながった。</p> |
| <p>6. 目標達成度及び達成状況に対する評価</p> | <p>セミナー参加者の満足度は目標値80%に対して、全て90%を超えており、目標を達成することができた。</p> |
| <p>7. 今後の課題</p> | <p>男女が共に、固定的な性別役割分担意識にとらわれず、自らの個性と能力を発揮して主体的な生き方を選択できるよう、職業選択の前に学ぶ機会を提供することが必要であるため、引き続き大学等を対象に取組を進める。 キャリアデザインセミナーにおいては、セミナー後同窓会を開催したが、参加者がつながっていけるよう、しばらくは引き続き支援していく必要がある。</p> |